

# 「大阪の宝」ただいま公開中

嘉数 次人

## 1. 「大阪の宝」と「大阪博」

いま、大阪の夢洲では大阪・関西万博が開催中です。国内そして世界各国から多くの人が集まり、多くの催しが行われています。それに合わせて、大阪市立科学館を含めた6つの博物館施設を運営する大阪市博物館機構では、博物館の魅力や楽しみ方などを発信するwebサイト「大阪博」(<https://osakahaku.ocm.osaka/>)を開設しています。

その活動の一環として、6館では「大阪の宝」という展示をリアルと

web上で開催しています。大阪は古代から中近世を経て現代に至るまで、一貫して「都市」として栄え、様々な人々が活躍し、多種多様な文化遺産が収集・蓄積されてきました。ですから「大阪の宝」は、まさに文化都市・大阪の輝きを表現するものです。同時にその収集に関わった先人や継承の履歴を通じて、それらをはぐくんできた都市大阪の魅力を感じることができるような代表品です。科学館を含めた6館が20点ずつ、合計120点を選定しています。



写真1. 「大阪博」のトップページ



写真2. 「大阪の宝」のポップ

「大阪博」のwebサイトでは、科学館を含めた6施設が「大阪の宝」として選定した珠玉の資料120点を高精細度の画像で見ることができ、一部の資料はより詳しく知ることができるコンテンツをご用意しています。また、これからご紹介するように、「大阪の宝」の選定品の実物もご覧いただけるよう展示します。

## 2. 科学館が選んだ「大阪の宝」

さて、科学館が選んだ20点のお宝は表1の通りです。これらの資料は、展示場に

常設公開しているものに加え、万博開催期間中の通期または一部の期間限定で展示しています。この8月号がお手元に届く時期以降ですと、最大で17点をご覧くださいことが可能です。

表1にあるように、これらの20点は一か所に集めて展示しているのではなく、展示場と無料スペースを含めた館内の様々な場所で展示しています。展示中の資料のそれぞれの傍には、写真2のような「大阪の宝」であることを示したポップを設置していますので、館内をご覧になる際にポップを目当てに探してみてください。

|    | 「大阪の宝」資料名称            | 展示期間             | 展示場所 |
|----|-----------------------|------------------|------|
| 1  | コッククロフト・ウォルトン型加速器     | 常設               | 4階   |
| 2  | カールツアイスⅡ型投影機          | 常設               | 地下1階 |
| 3  | カールツアイス・星座絵投影機        | 常設               | 地下1階 |
| 4  | 『舎密局開講之説』             | 常設               | 4階   |
| 5  | 『物理日記』、『化学日記』         | 常設               | 4階   |
| 6  | パロマ山天文台200インチ望遠鏡模型    | 4/13(日)～10/13(月) | 地下1階 |
| 7  | 霧箱                    | 常設               | 4階   |
| 8  | 「天文分野之図」              | 常設               | 4階   |
| 9  | 「舎密開宗」                | 9/9(火)～10/13(月)  | 1階   |
| 10 | レギオモンターヌス「アルマゲスト概要」   | 9/9(火)～10/13(月)  | 1階   |
| 11 | ガリレオ「天文対話」            | 9/9(火)～10/13(月)  | 1階   |
| 12 | ラボアジェ「化学要論」           | 9/9(火)～10/13(月)  | 1階   |
| 13 | 旧生駒山宇宙科学館 60cm反射式望遠鏡  | 常設               | 4階   |
| 14 | 間重富詩書                 | 4/13(日)～10/13(月) | 4階   |
| 15 | 西村製作所製 反射式天体望遠鏡       | 7/1(火)～10/13(月)  | 地下1階 |
| 16 | 電気科学館開館記念消印つき郵便はがき    | 展示終了(4/22～6/29)  | —    |
| 17 | 「鼓銅図録」                | 常設               | 4階   |
| 18 | 電気科学館プラネタリウムのスカイライン原画 | 展示終了(4/22～6/29)  | —    |
| 19 | N700系新幹線車軸カットサンプル     | 常設               | 3階   |
| 20 | 電気科学館PR用ポスター          | 展示終了(4/22～6/29)  | —    |

表1:科学館が選定した「大阪の宝」の名称と展示期間、場所の一覧表

## 3. 科学館が選んだ「大阪の宝」

さて、科学館が選んだ「大阪の宝」20点それぞれの概要は、「大阪博」webサイトの解説文でご覧いただくことができますが、ここでは、科学館で初公開の資料を中心に、いくつかをピックアップしてより詳しくご紹介します。

### 3-1. 西村製作所製 反射式天体望遠鏡

1920年代に大阪のアマチュア天文家が使用した天体望遠鏡です(写真3)。科学館で初公開の資料で、10月13日まで、地下1階のツアイス広場で展示中です。

この望遠鏡は、直径15cmの主鏡をもつ反射式望遠鏡で、鏡筒を支える架台は経緯台式です。

主鏡は、当時において高精度の鏡の製作者として知られた、京都帝国大学花山天文台の中村<sup>かなめ</sup>要(1904～1932)の手によるものです。また機械部分は、同じ京都で望遠鏡を製作していた西村製作所によるものです。残念ながら鏡筒内の斜鏡は欠品ですが、その他の部品は揃っており、太陽投影板やケースに収められたアイピース類も残されています。

主鏡は直径152mm、焦点距離は1,230mmで、鏡の裏側には、「NKM27」というナンバーと、「1926, Dec」という日付が刻み込まれており、前者からは中村要が27枚目に製作した反射鏡であること、後者からは1926年12月に製作されたことがわかります。

この天体望遠鏡が作られた1920年代当時、天体望遠鏡は輸入品が主流で、しかも大変高価な貴重品でした。そのような中、望遠鏡を製作・販売する国内メーカーが登場します。また、反射望遠鏡の鏡の自作法を紹介する本も国内で出版されるようになり、既製品・自作品を合わせた国産望遠鏡の数が増加していきます。これにより、全国のアマチュア天文家も望遠鏡を持つようになり、活動が活発化していきました。この望遠鏡もその中の一つであり、今から100年前の日本のアマチュア天文家の活動を今に伝える資料です。



写真3. 西村製作所製  
反射式天体望遠鏡

### 3-2. パロマ山天文台200インチ望遠鏡模型

これも科学館では初公開の資料です。大阪市立電気科学館で1943～45年頃に展示されていた、アメリカのパロマ山天文台の口径200インチ望遠鏡の模型で(写真4)、10月13日まで、地下1階のツアイス広場で展示中です。

口径200インチ望遠鏡は世界最大の天体望遠鏡として当時建設中で、1948年に完成しました。ですからこの模型は、実物の望遠鏡が完成する前から先取りで製作、展示されたことがわかります。

この模型のユニークな点は、200インチ望遠鏡を正確に縮小したのではなく、実際に望遠鏡を覗けるように構造を変えていることです。主鏡の直径は10cmで、接眼部はドイツサイズと呼ばれる差し込み径24.5mmのアイピースが装着できるようになっています(写真5)。もちろん、鏡筒は向きを変えることができます。全体の重量は20kg程度と少々重いのですが、鏡筒の長さが約50cmとコンパクトなことから、持ち運んで実際に使った可能性もあります。ただし、主鏡が観測できるように作られているかどうかの確認はしていませんので、今後の調査が必要です。

模型が電気科学館で展示されたのは戦時中でしたが、そのような時代において、海外の最先端の天文学を市民に伝えた貴重な資料です。



写真4. パロマ山天文台200インチ望遠鏡の模型

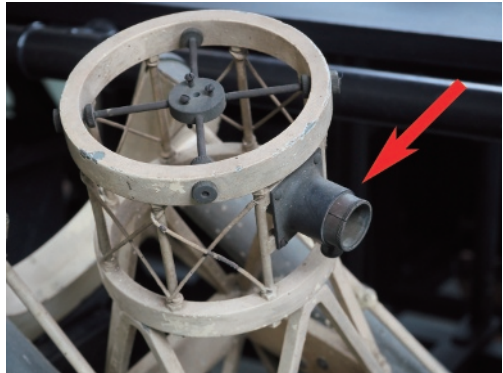


写真5. 望遠鏡の模型の接眼部(矢印)。アイピースを装着することができます

### 3-3. 間重富詩書

「間重富詩書」は、江戸期に活躍した大阪の町人天文学者・間重富(1756～1816)による詩の掛軸で、10月13日まで、展示場4階の「大阪の天文学」で展示中です(写真6)。間重富は大阪長堀で質屋を営む町人で、天文学を学び、18世紀末には幕府に招かれて寛政の改暦事業に参画しています。事業終了後は幕府から天文御用を命じられ、間家は家業と並行して幕末まで4代にわたり御用をつとめました。当時の大阪での天文学研究については、展示場4階の「大阪の天文学」で紹介

して、この「間重富詩書」も一緒に展示しています。書かれている詩は、七言絶句の漢詩で、読み下しは次のようになります。

早春 苧羅沅先生に呈す  
 江城春暖かにして紅霞に酔う  
 門外の風烟揚に柳斜めなり  
 はるかに識る君が家の千樹の裏。  
 枝々の懸雪は梅花に似たり  
 長涯間重富拝

冒頭に書かれている「苧羅沅先生」とは、江戸時代に医師、画人、詩人として活躍した原康侯(1731～1788)のことです。原康侯は多田玄介ともいい、苧羅山人と称しました。兵庫の多田に住んで医を業とし、大阪の文化人とも交流し、混沌詩社という漢詩結社でも活動しました。間重富は原康侯より25歳も年下ですが、木村兼葭堂(1736～1802)をはじめとした大阪の文化人たちと交流していましたから、その中から二人が出会い、重富がこの詩を贈ったものと考えられます。

「間重富詩書」に書かれた詩の内容は、科学とは関係はありませんが、江戸時代の大阪の文化の奥深さと、間重富の文化人としての一面を知ることができる貴重な資料と言うことができます。

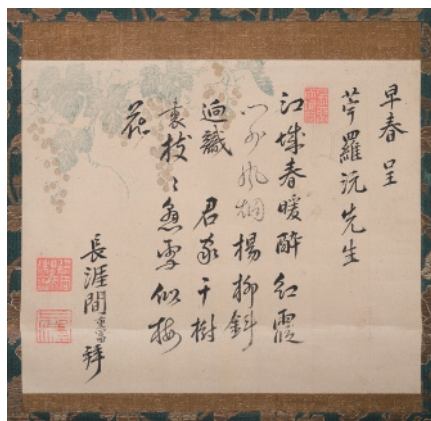


写真6. 間重富詩書

## 4. Webで「大阪の宝」を見てみよう

「大阪博」のwebサイトで、科学館が選定した20点を見る手順は表2のようになります。サイトでは他の施設の選定品も掲載されていますので、②の選択メニューで他の施設を選択すれば、それらを見ることができます。

また、いくつかの資料については、より詳しく紹介するコンテンツもご用意しています。資料の紹介ページに、「スペシャルコンテンツ：バーチャル体験展示室」という表示を付けていますので、見つけたらクリックしてみてください。

例えば、『鼓銅図録』は、江戸時代に大阪で銅の精錬を行っていた住友銅吹所が刊行した銅精錬の説明書ですが、解説文とまるまる一冊分の写真に加えて、銅の精錬法を紹介した説明文の読み下し文も紹介しています。また、17世紀に活躍した天

文学者・渋川春海が作成した星図『天文分野之図』は、星図に描かれている星座の名称の翻刻文がスペシャルコンテンツで見ることができます。そのほか、「カールツァイス・星座絵投影機」のコンテンツでは、星座投影機のしくみを紹介していて、装置の中まで見ることもできます。普段の解説よりさらに詳しく知ることができますので、ぜひご覧になってください。

|                                                                                    |                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
|   | <p>① 「大阪博」のトップページにあるメニューから「大阪の宝一覧」を選択します</p>                   |
|   | <p>② 「展示場所を探す」メニューから、「大阪市立科学館」を選んで検索すると、科学館選定の20点を一覧できます</p>   |
|  | <p>③ 一覧で表示された20点の資料のうち、詳しく見たいものを選べば、解説と高精細の画像や解説をご覧いただけます。</p> |

表2: web「大阪の宝」のコンテンツを見る手順

## 5. 「大阪の宝」をたのしもう

科学館を含めた大阪市の博物館6館は、いろいろな資料を所蔵しています。webサイトの「大阪の宝」でしたら、休館日や時間を気にせず、いつでも代表的な資料を詳しく見て楽しむことができます。また同時に、リアル展示もぜひご覧ください。特におすすめなのは、9月9日から登場する、ガリオの『天文対話』や、ラボアジェの『化学要論』、などの科学史上で有名な書籍の展示です。ぜひwebとリアルの両方で「大阪の宝」をお楽しみいただければと思います。

嘉数 次人(科学館学芸員)